

【解説】 David Wilcock が「無料の本」と称する膨大な量の *Financial Tyranny* の 2 つ目のファイルから、かつて活動の中枢にいた女性による、イルミナティの内部告発の部分をここに抜き出してみた。

告発や怒りというより、むしろ悲痛さが伝わってくるのがこのエピソードの特徴であろう。Svali によれば、彼らの圧倒的多数は、このグループを「善」なる団体と信じ、騙されて働いているのである。彼らの多くは、子供時代から徹底したイルミナティ教育を受けるために、それに気付くのが難しいようだ。このところ脱出者が増えているらしいことは、いろんな情報から推測できるが、彼女も、メンバーが本当に目覚め、勇気を持つならば、「大量脱出」が起こるだろうと言っている。イルミナティに階級があるのは周知のことだが、彼らが昇進を望むのは、人を傷つけなくても済むようになるからだという彼女の述懐は、すべてを語るものではなかろうか。

前イルミナティ、マインド・コントロール・プログラマー の告白

—David Wilcock, *FINANCIAL TYRANNY: Defeating the Greatest Cover-Up of All Time*
(II) より抜粋—

Svali による暴露

これまで読者にお知らせしてきたすべては、記録されている歴史的事実である。その多くは、この集団から脱出してきたインサイダーの証言によるものである。

こうした脱出は現在も続いている。そしてこれは、イルミナティが現在も生きて活動していることの強力な証拠になっている。

私は Svali と名乗るある女性と個人的に接触してきた。彼女は、現代イルミナティの中間階級メンバーだった人であり、1990 年代初期に脱出するまで、この計画を継承してきた生き証人である。

スヴァーリの手記はきわめて広範囲にわたっていて(リンク)、数冊の本になるほどである。私はたった一回だけの、彼女のラジオ出演を計画し、写し記録を作った直接の張本人であり、それは 2006 年 1 月 17 日、Republic Broadcasting Network の “Greg Szymanski ショ

ー”（リンク）でのことだった。

その当時、私は彼女のウェブサイト lionlambministries.org で、彼女の討論フォーラムを読んでいましたが、2005年12月、彼女がラジオを通じて沈黙を破る用意があると言っているのを見た。

Greg Szymanski の名が2つの選択の一方として浮かび上がった。私は直ちにグレッグに至急の手紙を書き、コンタクト先を知らせた。彼女と私もまた文通を始めたが、これは不幸なことにラジオ番組の後で途絶えてしまった。

私は客の形でこの番組の終わりに割って入り、彼女の勇敢さに対して感謝を表明した。私は写し記録（リンク）では、私がこれを計画したことがはっきり分からないように、故意に名字のつづりを変えておいた。

スヴァーリは、2006年1月にこのショーに出て以来、どこにも、たった一つの公的文章も書いていない。しかし我々は彼女が生きていることは確認している。彼女はこのラジオ番組のために、ひどい拷問を受けたのである。

http://divinecosmos.com/Illuminati_Defector_Svali_Speaks.mp3

“The Revealing”

スヴァーリの言うことが正しいとすれば、この「純粋なルシファー教義の一般への最終的公開」は The Revealing（秘密公開）と呼ばれ、それは2020年に予定されていると、彼女は聞かされてきたようだ。

こういうことが、普通の特定の日に起こるように計画されるなどということはない。このような計画のためには、Albert Pike と Giuseppe Mazzini (ともに初期イルミナティ指導者)によって計画された「恐るべき社会的地殻変動」を引き起こすための、地球規模の経済的崩壊がまず要求される。

私はこの“Revealing”が起こるとは思わない。それは現在、世界中の人々の目覚めが、それを防ぐ程度にまで高まっているからである。

パイクとマッシーニは、インターネットという、世界規模の完全に自由で統制されない伝達手段の可能性を予知できるほど、賢くはなかった。これこそ彼らが、彼らの計画におい

て犯した最も決定的なただ一つの失敗だった。

その結果としての一般民衆の覚醒は、メディアの拘束を打破し、真実を暴露し、この惑星の解放を計画する、122カ国の同盟を今つくり出している。(これについては後述する。)

このグループを強い意志をもって、世界的に最終的に敗退させるためには、危機的な頂点にまで事態が追い詰められる必要がある。しかしその意志はすでに現実化している。

否定的態度を粉碎する

しかしこの問題の解決を論ずる前に、これを阻む、破らねばならない壁がまだいくつもあ

る。続くいくつかのセクションは、この研究調査の中でも、最も読むのが恐ろしい部分であることを私は承知している。しかし再び言うが、我々はこの惑星の危機的頂点に達しているのであって、真理を否定したり拒絶できるような余裕の、もはやない立場に立っている。

ここで読んでいただくのは、スヴァーリが2000年に、H. J. Springer (今は機能していない Centrex News ウェブサイトの創設者) に対して行ったインタビューからの抜き書きである。

私は下に、archive.org からオリジナルのリンクを引いている。

スヴァーリの仕事のすべては、これら書き起こされたインタビューやラジオ番組のスク립トも含めて、現在では編集されて、<http://svalispeaks.wordpress.com> に収められている。

ここではっきりさせておきたいことは、**目撃者の証言は法廷では、証拠として認められる**ということである。その場合、その証拠の真偽認定が可能であれば、その証言は**法的な証拠**となる。

スヴァーリの証言を、確実に正しいものとして支える他の著者たちは多数いて、読むのも苦勞するほどだが、そのいくつかをあげれば:—Brice Taylor (*Thanks for the Memories*), Cathy O' Brien (*Trance-Formation of America* および *Access Denied*), Annie McKenna (*Paperclip Dolls*), Kathleen Sullivan (*Unshackled*), Carol Rutz (*A Nation Betrayed*), Lynne & Cheryl Hersha (*Secret Weapons*)—この本はCIAの代作という説もある—Wanda

Karriker (*Morning, Come Quickly*), “Mauri” (*Vatican Ratline*), Janet Thomas (*Day Breaks Over Dhramsala*), James Shelby Downward (*King-Kill 33*および *The Carnivals of Life and Death*), Fritz Springmeier (*Bloodlines of Illuminati, The Illuminati Formula Used to Create an Undetectable Total Mind-Controlled Slave*—『見破れない、完全にマインド・コントロールされた奴隷を創り出すのに用いられる、イルミナティの計画』—および *Deeper Insights into the Illuminati Formula*)など。(書名はすべてリンク)

この他にも、無数の資料や目撃証言がここに見つかる (リンク)。

スヴァーリの証言を検討した後で、我々は、彼女の証言の正当さを日常世界で確かめる具体的な情報を、簡単に探ってみることにする。

完全に有無を言わさぬもの

スヴァーリによる書かれたデータの量は膨大で、数百ページにおよぶ。上に私がリンクしておいたラジオ番組は、聴く者の心をつかむ、有無を言わさぬものだ。

彼女は口早に自信をもって、非常に複雑で難しい問題について話している。その上、我々の歴史的な調査は、彼女の証言の鍵的な多くの側面の正しさを立証している。

スヴァーリの生命は、彼女がこの番組に出て以来、脅かされるようになり、彼女は隠れて生活している。彼女は、このグループを暴くために書いた何百頁もの資料から、利益を得ようとしたことは一度もない。

他にも表に現れてきた生存者はいるが、これまでのところ彼女が最高位のメンバーであり、最も多量の知識と経験の記録文書を残している。

ラジオ・インタビューの後、私は、この方面の調査をすでに発表していた Henry Makow に、彼女の仕事を教えてやった。ほどなくして彼は、彼女の証言を大きく概観する記事を書いた。

<http://www.rense.com/general30/illuminatidefector.htm>

私のこの抜き書きでは、「儀式虐待」を論じている部分をなるべく避けるようにした。読者がこの嫌悪をもよおす主題について——特に望むなら別として——読まなくてもいいようにするためである。

ただこれだけ言っておけば十分だろう：——幻覚を起こさせる薬物や催眠術や拷問——主として電気ショックによる——は、明らかに人格分裂を起こさせることができ、その一つひとつが別々の自己感覚をもち、「記憶喪失的障壁」によって、他から孤立させられることがあるということ。

そこで当面は、スヴァーリが語っている組織そのものの、特定の事実のいくつかに焦点を当てることにしよう。

イルミナティとは何か？

<http://web.archive.org/web/20030813222809/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/12/svali02.html>

Q：スヴァーリさん、私は、我々の読者が考えていることは、「イルミナティは宗教なのか、秘密結社なのか、サタン崇拝なのか、そういったものの組み合わせなのか、それとも何か全く別の、もっと不吉な何かなのか」という疑問だと思うのですが…

A：イルミナティとは、“光を得ること”（enlightenment、覚醒）と呼ばれる信仰の一形態を実践するグループです。それはルシファー崇拝（Luciferian）であり、その信者に対して、彼らのルーツは、バビロンやエジプトや、ケルトのドルイド教のような、古代の神秘宗教にまで遡ると教えます。

彼らは、それらの基本的な信仰実践から「最善のもの」と考えるものを取り出し、それらを結合して、強力にオカルト的な規律（discipline）に仕立て上げました。

地方レベルの多くのグループは、「エル」とか「バール」とか「アシュタルテ」また「イシスとオシリス」「セット」のような古代の神々を崇拝しています。

それは認めた上で、指導者階級の協議会では、時に、こうしたアナキスト的な、より低いレベルの「原始的」崇拝を笑い物にしています。

私がサンディエゴの協議会に参加していたときの話ですが、彼らは男女の高僧たちを、「つまらぬ細部にこだわる」（slice and dice）「低レベルの者たちを幸せにしておく」連中と呼んでいました。

これは誰をも怒らせるためでなく、ただ指導者レベルの人々は、しばしば、自分をより科学的なすぐれた認識を動機とする者、と考えているということです。しかし、光（智慧）を得るといふ原理を実践していることは、みな同じです。

これには12段階があり、「規律の12段階」とも呼ばれていますが、彼らはまた、天体旅行とかタイム・トラベルといった形而上学的現象をも教えます。[DW：12段階については下に説明する]

彼らが本当にそんなことをするのか、麻薬による妄想なのか、私にはわかりません。

私はこのグループにいるとき、合理的には説明できないと思われる、いろんなもの、いろんな怖いものを見ましたが、それはカルト的マインド・コントロール、麻薬による効果、催眠術などに、何か本当の悪魔の活動が結合したものかもしれない、としか言えません。

それがどんな割合でそうになっているのか、見当もつきません。ただ、これらの人々が悪を教えかつ実践していることは確実にわかります。

より高い階級については？

<http://web.archive.org/web/20030813222809/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/12/svali02.html>

より高い階級では、このグループはもはや、衣を着てかがり火の前で呪文を唱えるような人々ではありません。指導者協議会には金融を担当する管理者たちがいます（そしてなんと、このグループはお金を作っています。それだけでこのグループは運営されます——たとえ残りの者たちは宗教的なゴミ屑ばかりでも）。

指導者レベルには、実業家や銀行家や地方の共同体のリーダーがいます。彼らは聡明で高い教育を受けており、彼らの教会で活動的な人たちです。

地方の指導者協議会の上に、教区の協議会があり、その人たちが下のグループに指令を出し、それぞれの教区が方針や将来計画を立てるのを指導し、地方の指導者協議会と連絡を取っています。

国家レベルでは、彼らはきわめて富裕な人々で、これらの目標に資金を提供し、他の

国々のリーダー達と連絡し合っています。

イルミナティは国際的な組織です。秘密の？ それは絶対的です。子供が「ファミリー、あるいは教団」と呼ばれているものから教えられる最初のことは、“教団の第一のルールは秘密だ” というものです。これが、生きて脱出してきたもっと多くの人たちから情報が得られない理由です。このグループが、そのメンバーを脅して秘密を明かさないようにするやり方は、想像を絶するものです。

Q：それは、ドイツでアダム・ワイスハウプト（Adam Weishaupt）が創始したものと同一イルミナティですか？

A：ワイスハウプトがイルミナティを創ったわけではありません。彼らは彼を船首飾りに選んで、どう書くかを教えたのです。イルミナティを創ったのは金融業者たちで、彼らは Templar 騎士団の時代の銀行家に遡り、ヨーロッパ初期の王家を財政支援した人たちです。ワイスハウプトは傀儡で、彼らの命令通りにしたのです。

フリーメイソンとイルミナティの関係は？

<http://web.archive.org/web/20030810070816/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/12/svali04.html>

Q：スヴァーリさん、おそらく読者が特に聞きたいと思っている重要なことの一つは、イルミナティとフリーメイソンの関係です。あなたのイルミナティにおける前の立場で、知っておられる範囲で教えてください。メイソン教団の浸透ということがあった——ある——のですか？

A：フリーメイソンとイルミナティは互いにピッタリの関係なのです。こう言ったら怒る人があるかもしれませんが構いません。事実ですから。

ヴァージニア州、アレクサンドリア（この地名自体、イルミナティ活動の温床であるエジプトのアレクサンドリアに因んだもの）のメイソン神殿は、ワシントンDC地区の、イルミナティ学問と教育の中心になっています。

私は、昇進のためのテストや、学問や高い儀式を受けるために、定期的にそこへ連れて行かれました。このメイソン・グループの指導者たちはイルミナティストでもありました。

これは私が住んだあらゆる大都市で同じでした。トップのフリーメイソンたちは、イルミナティストでもあったのです。

私の母方の祖父母は、ピッツバーグの高位（33 階級）のメイソンで、同時にこの地区のイルミナティの指導者でした。

ではすべてのメイソンがイルミナティかという、そうではありません。特に低い階級の人々は、大きな神殿で真夜中に行われている儀式のことは、何も知らないと思います。

多くは、おそらく優秀なビジネスマンやクリスチャンであったりします。しかし 32 階級やそれ以上の人で、イルミナティでないという人を私は知りません。フリーメイソン教団は、イルミナティ活動の「フロント」として作られています。

イルミナティは自らを悪でなく、善なる集団と信じている

<http://web.archive.org/web/20030810070328/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/12/svali03.html>

もう一つ、間違っ理解されていることについて言いましょう。それは、イルミナティストが自分を悪だと自覚しているという誤解です。

私がこのグループにいたとき、私も周囲の人たちも、善としての将来計画に参加しているという意識をもっていました。

私は、自分がトレーナーであったとき、他者を彼らの十全の潜在力に導くつもりでやっていました。

私は長年の汗と努力の結果、自分の知力が勝利して、すぐれた指導者になれたと思っていました。

私は協議会でも、上の人たちが公平でないと思ったときには、彼らに盾突き、自分より下の人たちのために立ち上がりました。他の人たちも同じようにしました。この人たちは本心から、自分たちは良いことを行っていると考えていますから、それは間違いだとか悪だとか言うと、彼らは当惑した様子を見せたものです。

私自身、カルトの外の人たちとリアリティ・チェックをしてみて、それがすべて嘘だということが分かるまでに、実に多くの療法とデプログラミングが必要でした。

私は立ち上がれないほどでした。生涯を捧げて、他の人たちが栄光ある新しい秩序を実現する手助けをしてきたのに、それが「悪」であり他者の蹂躪であることがわかったのです。私はこのために、強い悲しみと嘆きの長い期間を過ごしました。

私の知っていたほとんどのイルミナティストは、悪ではなく騙されていたのです。頂上の指導者層だけが、おそらく意識的に害を及ぼす人たちだったと思います。

イルミナティは世界を支配しようとしているのか？

<http://web.archive.org/web/20030813222809/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/12/svali02.html>

イルミナティが考える一つの地域を支配する方法は——まず銀行と金融機構によるものです。彼らのどれだけ多くの者が銀行業についているか、わかりますか？ 驚きますよ。

次に地方政治です——どれだけ多くの者が地方都市の評議員に選ばれていることか！

次に法律——子供たちは、ロー・スクールやメディカル・スクールに行くよう奨励されます。

そしてメディア——また別の子供たちは、ジャーナリズム学校へ行くことを奨励され、メンバーたちは地方新聞に資金を提供しています。

「新世界秩序」への資金提供

http://web.archive.org/web/20030608223845/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2000/suite101_07.html

このグループのプロジェクトの資金として使われる大量のお金、北半球一帯と世界から注ぎ込まれた資金を、私は目撃しました。

世界の隅々へと使者が送られ、トップの金融機関の多くは、この「新世界秩序」を実現させる事業には既得権益をもっていました。

これは指導者会議で討議され、このグループのメンバーすべてに、ビデオで見せられました。(たとえば私が 1960 年代に見た目の粗い映画では、13 人のメンバーが大きな丸いテーブルに坐り、「この方々が皆さんのリーダーです」と紹介されると、彼らは立ち上がって、来るべき「新世界秩序」に忠誠を誓っていました。)

私は「名誉棄損」と言われるのを避けるために、この映画に出てきた人物たちが誰かは言わないでおきますが、彼らはよく知られた影響力ある人々で、その多くは現代世界の銀行システムの背後にいる人たちです。

[DW : この後から出た記事 (リンク) では、スヴァーリは、ロスチャイルドとロックフェラーの両家が、「来るべき新世界秩序」を支配する予定の「最高世界評議会」の席を占めていることを明かしている。]

イルミナティは、背後から静かに、来るべき世界秩序に資金を提供しているのです。

彼らは、金は、よく言うように「口ほどに物を言う」だけでなく、メディアに書かせたり、黙らせたり、保護させたりして、我々の現代世界を形成するのに必要な影響力をもつことができる、と信じているのです。

イルミナティは本気で世界を支配しようとしているのか？ 本気です。そしてこれこそ、彼らがメンバーに教えていることなのです。彼らは、私がこうしている間も、この目標に向かって貪欲に仕事をしています。

彼らのごく少数の、しかし強力なマイノリティ

http://web.archive.org/web/20030810071654/http://www.centrexnews.com/columnists/svali/2001/01/Q_A01.html

イルミナティと彼らに従う者たちは、世界人口のごく少数者です。人口が 200 万強のサンディエゴ郡では、5 年前に、メンバーがそれぞれ 60 から 75 人程度の姉妹グループが 24 ありました。この群を管轄する指導者評議会は 13 人でした。

だから人口 200 万強の主要都市で、活動するイルミナティは 1500 人以下ということで、

イルミナティはおそらく、アメリカ人口の1%か2%でしょう。ということは、あなたが知っていて共に働いている人たちの99%は、イルミナティではないということです。

我々の共同体や金融システムのリーダーのほとんどは、イルミナティのことを聞いたこともないと思いますが、それは彼らが少数者だからです。

ではなぜ、彼らがそんなに問題なのでしょう？ それは悪い人たちの小さなグループが、大きなダメージを与えることができるからです。たとえばこういうことがあります。

我々の社会のほとんどの人々は、子供ポルノに関わってはいませんし、それを子供に対する犯罪と考えていて、機会があればそれと戦おうとします。

しかし、それに関わっているほんのわずかの人たちが、子供たちに対して計りしれぬダメージを与えています。この犯罪の効果は、関わる者たちの単なる数では計れないものです。

なぜ子供ポルノがなくなるのでしょうか？ 我々は証拠をつかんでおり、官憲はその存在を知っています。しかしそれは数十億ドルという産業なのです。

いったいどうやってこの連中は、法と逮捕から「隠れる」のでしょうか？ なぜ警察は彼らを止めないのでしょうか？ それは彼らが馬鹿ではないからです。

彼らは秘密のもとに仕事をしています。彼らは居場所をたびたび変え、官憲に告げ口する者を殺します。彼らは痕跡を完全に消すために賄賂など、いろんな手段を用います。また優秀な弁護士を雇っています。

そこでイルミナティを眺めてみるとどうか？ そこに関わるこの1%の人々はきわめて知能が高いのです。そして彼らは、よちよち歩きの頃からずっと、彼らの真の約束を部外者には決して明かさないという、命を賭けた誓約をしているのです。

イルミナティの最大の弱点は何か？

<http://svalispeaks.wordpress.com/2008/09/12/part-7-illuminati-symbols-and-clues-level-of-infiltration/>

1. 彼らは傲慢であり、これが彼らの命取りになり得る。彼らは普通の人々を、考える頭を持たない「羊」と見ている。

彼らは思い上がっていて、自分たちには付け入るすきがなく、彼らにつきまとうどんな記者も、ぴしゃりと叩ける蠅のように考えている。

傲慢な人々は間違いをする。そして彼らは近年、ますます大胆にオープンになってきている。

2. 彼らは、神を打ち負かすことができると考えているが、これは大きな間違いだ。神は歴史の手を止めることができ、このグループからますます多くの者が脱出することを期待して、そのようにされている。神は慈悲深いからである。

3. 彼らのほとんどは、このグループを脱することが可能であることを理解できない、傷つき虐待された被害者である。

各階層に多くの不満分子がいる。だから、もしメンバーたちが本当に脱出する（そして生きる）ことができると分かれば、大量脱出が起こるだろう。

私の知っていたトレーナーの多くは（私は邪悪な、加虐趣味の、小児性愛者たちを知っている）、自分たちのやっていることを喜んではいなかった。

彼らは静かに囁いたり、顔を見合わせたりして、彼らがやらねばならないことを不満に思っているという様子を示したものだ。彼らが諦めて仕事に励んだのは、昇進を期待してのことだった。

このグループで階級が上がる人たちに与えられる、一番大きな魅力の一つは何か、ご存知であろうか？ それは、もうこれ以上人を傷つけなくてもよくなること、そして自分も虐待されなくなることである。

（これは本当のことだ——グループの中の上位者だけが、下位者を虐待することができるから、すべての者が、その可能性ある者の数が少なくなる地位へと移動したがるのである。）

スヴァーリがウィルコックのEメールの質問に答える

スヴァーリが公的に明らかにした事実は広範囲にわたるが——上に選んだのはその一部にすぎない——私はまだ、いくつか答えられていない問題があると感じた。

彼女をラジオに登場させる交渉をしたのが私だったこともあり、彼女は私の個人的な質問に答える意欲を示してくれた。その結果を公表するのはこれが初めてである。

私は、彼女の答えには疑問の余地もあることをまず認めよう。これは、いわゆる黒魔術がこのグループでは用いられていること、そして時には、その形ある結果が明らかに現れることを示すものである。

彼女が述べている、見える物や経験は、麻薬による幻覚の結果であり得る。そして私が『根源の場の研究』に書いた調査に基づいて言えば、そういったものは共有の経験になり得る。

ただ、十分な暴露情報を重んじて、私は彼女の言ったことを検閲するつもりはない。

スヴァーリのウィルコックへのEメール——序

——Original Message——

From: Svali

Sent: Saturday, January 14, 2006 1:54 PM

To: David Wilcock

Subject: to David from Svali

デイヴィド、

私はいくつかの質問に答える約束をしたので、そのようにしましょう。ところで私はGregと連絡を取り、この水曜日に彼のインタビューに答えることにしました。

これは私が今までに許諾した、たった2度のラジオ・インタビューの2番目ですが、あなたも私のある旧友も、この人物について保証してくれたので、応ずることにしました。

スヴァーリへの最初の質問

ウィルコック：あなたは、イルミナティには6つの研究部門があり、適性に依じて異

なったメンバーが、異なった領域で研究していると言われました。

そのうち3つはだいたい想像できます——軍事、メディア、それにリーダーシップ部門です。あとの3つ、「人文系学問」「諸科学」「スピリチュアル」については、具体的にわかりにくいと思います。

もし、それぞれの部門で何をしているのか、カテゴリー別に、もっと詳しい説明をしていただけたら、本当にこれを理解しようとしている人々の役に立つと思います。

科学部門（スヴァーリ自身の分野）

スヴァーリ：科学部門が関わっていたのは、科学研究とリサーチのいろんな領域を概観することで、行動科学、脳マッピング、実験的麻薬研究、[催眠]効果テクニック、それにトレーニングをもっと迅速に確実に行う方法、などが含まれます。

彼らはちゃんとした「科学的方法」に従ってやっていて、多くの国家的・国際的な研究報告文献をもっています。

このグループのトップのトレーナーや科学者が、この部門に深く関わっています。子供もまた、ある程度の科学訓練を受けますが、本当の適性とふさわしい知力をもった者だけが、ここへ差し向けられます。

科学部門の人たちは定期的な（年次）学会を開いて、他の者たちに教えます。実は、新しい科学技術を教え、最近の研究結果を全体に知らせることが大変重要なのです。

科学部門はまた、観察に基づいたトレーニングの研究結果に従ってやっているか、トレーニングや観察に携わる者たちが、生理的・行動的な、またストレス・パターンの変化を、観察し記録する技量を持っているか、というようなことまで監督しています。

科学部門には、ワンウェイ・ミラーの後ろから子供たちを覗いて、通常の行動パターンを観察し、外からの刺激や変化が導入されたときのパターンと比べる、というようなものもあります。

また、ある人間がどれくらい「タンクされる」（一人だけ閉じ込められる）ことに耐えられるかをモニターで観察し、ストレスに耐えられる限度を調べるようなこともやります。

人文系部門についてスヴァーリ

スヴァーリ：人文系部門は、家族の歴史の口頭による教育、系譜研究とその伝承、新しい学問の研究などに深く関わっています。

古代言語を含む諸言語の学習は、この部門に入ります。

より最近では、コンピューター科学とハッキングの訓練が、この部門に入るようになりました（そうです、おそらく高い技術をもつハッカーがいます）。

伝説とか口頭による歴史とか物語が、グループにとって必要な場合は、それが人文系部門に入ります。

この領域に深く関わる人たちは秀でた教師であり、教育を補足するために、教えている歴史の内容をドラマ化したりします。

スピリチュアル部門についてスヴァーリ

スヴァーリ：スピリチュアルは、霊的な啓発にかかわるこのグループの部門です。ここでも、すべてのメンバーがこの領域のトレーニングを受けますが、特にすぐれている人たちが選ばれてこれを専門的に行います。

スピリチュアルには次のようなものがあります——

- * 各自の霊的指導者——この領域に秀でた人——による集中的個人指導
- * 次元と時間を旅する能力、心霊的な旅をする（幽体離脱）能力
- * 力による戦闘の体力
- * 心霊的に相手を傷つけるか殺す能力、その他の超常現象

スピリチュアルのトレーニングには、拷問を受け、次に別の次元に移って、そこから見えるものを報告することも含まれます。

スピリチュアルには、また、「ストーン・ヘンジ」を訪問し（はい、確かにそこはこのグループにとって霊的な場所です）、一定の儀式を行い、ポータル（異次元への門）をくぐって過去へ遡ることも含まれます。

ここでのトレーニングの変わった点は、ボードの上を動く駒を持つ「チェス・マスター」とするチェス試合かもしれません。

控え目に言ってもこれは奇妙なシロモノですが、これがスピリチュアルの科目なのです。ここではまた儀式、すなわち、スピリチュアルから離れた人たちが“slicing and dicing”（つまらぬ細部にこだわる）と言っているもの、を担当しています。

「覚醒（enlightenment）の 12 段階」とは何か？

ウィルコック：もう一つ、「覚醒の 12 段階」と言われているものについて、もう少し詳しく説明してもらえれば、あなたがハリウッド映画にそれを教えているものがあると言われていることを理解するのに、役立つのではないかと思います。

人々はまた——たとえそれが、その目標のために混乱して歪んだものであったとしても——それはおそらく全体的に秩序立ったものでしょうから、あなたが勝手に頭の中で発明したようなものでないと了解すると思います。

スヴァーリ：私の著書“Breaking the Chain”にその概要を述べています。[DW：この資料を含むウェブサイトへのリンクは[ここ](#)]

基本的に言って、これらの段階のゴールはイルミナティの覚醒のゴール、つまり神になることです。イルミナティは、旅の頂上に着いて真に覚醒した人々は、神になると信じています——本当に信じているのです。

これがこの人たちにとって、すべての苦痛、責め苦、トレーニングの目的なのです。

トップ・トレーナーのある者たち（メンゲレとか私の知る何人か）は、自分が「神」であると本当に信じている所があって、そのように呼びかけるように主張していました。

最初の 3 段階

スヴァーリ：最初の 3 つの段階は、放棄、つまり望まないこと、必要としないこと、肉体的な欲求から解放されることに関わるものです。

子供は（１）決して頼まない（２）欲しがらない（３）恐ろしい経験をさせられたり勉強をさせられたりする必要が絶対がない、ように条件づけられます。

こうした訓練は、**自分の意志と自我の感覚をへし折り、外部の人々を、人は何を求めるべきかを知る手掛かりとして見るように、目論まれたものです。**

3段階から6段階へ

スヴァーリ：（４）傷つけることは愛である、（５）世話をすることは苦痛をもたらす、そして6段階目は、（６）裏切りは最大の善である、と教えます。

子供は、誰よりもまず自分自身を頼りとすること、そして決して他人を信頼しないことを教えられます。

またこの時点で、多くの霊的トレーニングが導入されます。たとえば子供には、信頼できる、長年にわたって辛抱強く教えてきた、経験ある霊的導師が付けられます。

突然、その導師は子供の方を向いて、彼らを心霊的に殺そうとします。すると子供は自分の命を護るために、彼ら自身の心霊的守護者（悪魔）を呼び出すことを強いられます。

もし子供がそのテストに失敗したら、彼らは死ぬかもしれず、ひどい傷を受けて、回復するのに何カ月もかかるかもしれません。

パスした子供たちは、彼らの導師と戦うことができ持ちこたえますが、大きな霊的な代償を払います。それは守護者が常に、子供の命を助けてやる代償として、情緒的・精神（霊）的に「1ポンドの肉」を奪うからです（彼らはこれを親切でやっているのではありません）。

7段階から9段階へ

スヴァーリ：次の3段階（7-9）は、深い忠誠心を植え付けることで、（7）決して命令に背かない、（8）決して質問をしない、（9）3人組（トラウマの絆を通じてその子供が取り込まれた3人の大人）を守護する、ように徹底指導します。

これは、暗殺トレーニングのほとんどが導入される段階でもあります。また自殺の方

法もここに入ります。

(たとえば——子供は、彼らのトレーナーから自殺の命令を受けます。彼らはこのテストをパスするためには、実際にナイフの上に倒れなければなりません。トレーナーと2人の助手が、子供が成功する寸前のところでこれを止めます。)

10 段階から 12 段階へ：選んだ部門への専属

もし読者があまりの嫌悪感でこれは読めないと言われるなら、お許しを願いたい。何も問題はないという人もあるだろうが、この時点で、悲痛と恐怖と暗鬱に耐えきれぬ人もあるだろう。それは理解できる。

こうした圧倒的な感情が、幅広くこの問題を研究し理解することをこれまで妨げてきた。しかし何が起きているのかを知らなければ、それを止めることはできないだろう。

読んでわかる通り、これらの「覚醒の諸段階」は、身の毛もよだつ虐待とトラウマ以外の何ものでもなく、これは完全に自殺願望人格をつくり出すものである。このようなトラウマは同時に、殺人を容易にする人格をつくり出すものだ。

サヴァーリは後に短い手紙で、最後の3段階は、子供がどの部門を選んだか、あるいは選ばれたかによって、違ってくることを明らかにしている。

それぞれの部門が、リーダーになるための異なった資格を要求している。子供たちの多くは、自分の命よりも自分の虐待者の命を護らねばならない、第9段階をすら通過できないでいる。

子供がこの最後の3段階を先へ進むほど、彼らはこの教団の中で——また世間の目、特にリーダーシップ、メディア、軍事部門において——より高位の、より影響力を持つ存在となるだろう。

リーダーシップ部門の卒業者は例えば、政治家、教会指導者、裁判官や会社重役として成功することができる。

メディア部門の卒業者は、テレビジョンや映画の目に触れる俳優、ニュース・ジャーナリストやプロのミュージシャンとして成功することができる——そのすべてが公衆の目に触れるわけではないが。

軍事部門の卒業者は、やがては自分の生まれた国家の、国防機関の指令者の地位につくようになるが、背後から働くこともある——例えば、国防省の請負業者として。

[以下、さらにスヴァーリの個人的な告白が続くが省略]